

2023年(令和5年)

11月例会

日時：11月18日(土)14時より

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎 Y606 教室
(対面方式のみでの開催)

講師：比較文学者 小谷野敦

題目：日本人が西洋を描いたフィクションの性質について
——少女マンガ・純文学・耽美趣味——

司会：法政大学 日中鎮朗

12月例会

日時：12月16日(土)14時より

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎 Y606 教室
(対面方式のみでの開催)

講師：日本大学(元教授) 椎名正博

題目：『紫苑物語』——小説を読みオペラを見る——

司会：大東文化大学 大西由紀

INSIDE THIS ISSUE

1. 11月・12例会案内
2. 例会会場案内
3. 例会要旨等
4. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2023年11月例会終了後、対面方式で開催します。
(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、各種委員会委員長、事務局委員です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

11月例会発表要旨

日本人が西洋を描いたフィクションの性質について ——少女マンガ・純文学・耽美趣味——

比較文学者 小谷野敦

外国人、主に西洋人が日本を舞台にするなどしたジャポニズム・フィクションとは逆に、日本人が欧米を舞台にした、しかし日本人は登場しない小説について整理しておきたい。この場合、ヨーロッパの範囲は、古代ローマ帝国の版図とし、イスラエルやエジプトも含むこととする。明治初期の『経国美談』(1883-84)や、戦時中の太宰治「駈込み訴え」(1940)など例外を除くと、一九六〇年代から、辻邦生(1925-99)が多くそういった小説を書いているが、辻の小説は歴史小説で、純文学なのかどうか疑わしい、芹沢光治良(1896-1993)の系譜に連なるヒューマニズムからなる高級通俗小説になる傾向がある。ほかに単発的に中村正軌(1928-2020)『元首の謀叛』(1980)や、山口雅也(1954-)『生ける屍の死』(1989)などのサスペンス・推理小説があるが、さらに一九九〇年代に入って、佐藤亜紀(1962-)、佐藤賢一(1968-)らがヨーロッパを舞台とする歴史小説を専門的に書くようになり、近年では佐藤亜紀の『喜べ、幸いなる魂よ』(2022)と川本直(1980-)の『ジュリアン・バトラーの真実の生涯』(2021)と、欧米を舞台とした小説が二年続けて読売文学賞をとっている。SFやファンタジーでは、西洋のようでもあるがはっきりしないものも多く、通俗小説ではより多くのものが書かれている。だが実際は西洋を舞台としたフィクションは少女マンガの世界でさきがけて描かれており、宝塚歌劇にも引き継がれている。『ベルサイユのばら』や竹宮恵子(1950-)、萩尾望都(1949-)らがいるが、それらは歴史もので、少年愛や同性愛を描いたり、上流社会を描くなど「耽美もの」であることが多く、小説のほうもその影響を受けて歴史小説で、同性愛、耽美、上流社会を描くことが多く、現代の下層民の世界を描くことはめったにないということである。その意味では、日本人が西洋を舞台として書いた小説は、はっきりと純文学ととらえきれものは少なく、高級通俗小説になる傾向が強いといえる。また佐藤賢一のように、小説ではなく新書で歴史叙述としてフランス史を書くなど別方面への展開もある。

12月例会発表要旨

『紫苑物語』

——小説を読みオペラを見る——

日本大学（元教授） 椎名正博

2019年2月、東京初台の新国立劇場でオペラ『紫苑物語』（台本・佐々木幹郎、作曲・西村朗）が初演され、大きな反響を呼んだことは記憶に新しい。原作の発表から60年以上の時を経てこの小説がオペラに翻案されたことには、それなりの理由があるだろう。本発表では小説『紫苑物語』が、どんな小説観に基づいて書かれたのか、それがオペラ化にあたってどう活かされているのかを考察したい。

『紫苑物語』（『中央公論』1956年7月）の作者石川淳（1899-1987）は、20世紀の日本を生き延びた小説家としてユニークな存在である。それは彼が「もっとも醇乎たる日本語の伝統を保持している作家」（澁澤龍彦）であるのみならず、「小説における「構とは何か」（あるいは同じことだが「小説とは何か）」を「自己とは何か」の同義語として問うことにおいて作家であることをしている作家」（野口武彦）でもあるからだ。

散文において考えながら書くという石川流の小説作法の着想は、明らかにフランス文学、それも20世紀初頭の象徴主義的な風土に発している。『紫苑物語』はこの点を特に明確に示している点で、散文でありながら詩に近づいた小説であるとさえいえるだろう。冒頭の一文が「頭韻法」を意図して書かれていること、この一文から物語が巻物を広げるようにほどこれていくように見える事実を指摘したい。こうした叙述のために、本作には空間、時間にかかわる描写や人物やものの具体的な描写がきわめて少ないことも重要な点である。さらに物語の終焉の部分では、石川の漢籍の知識が活かされたのであろう、晩唐の詩人李商隱（812-858）の詩が暗示されている。

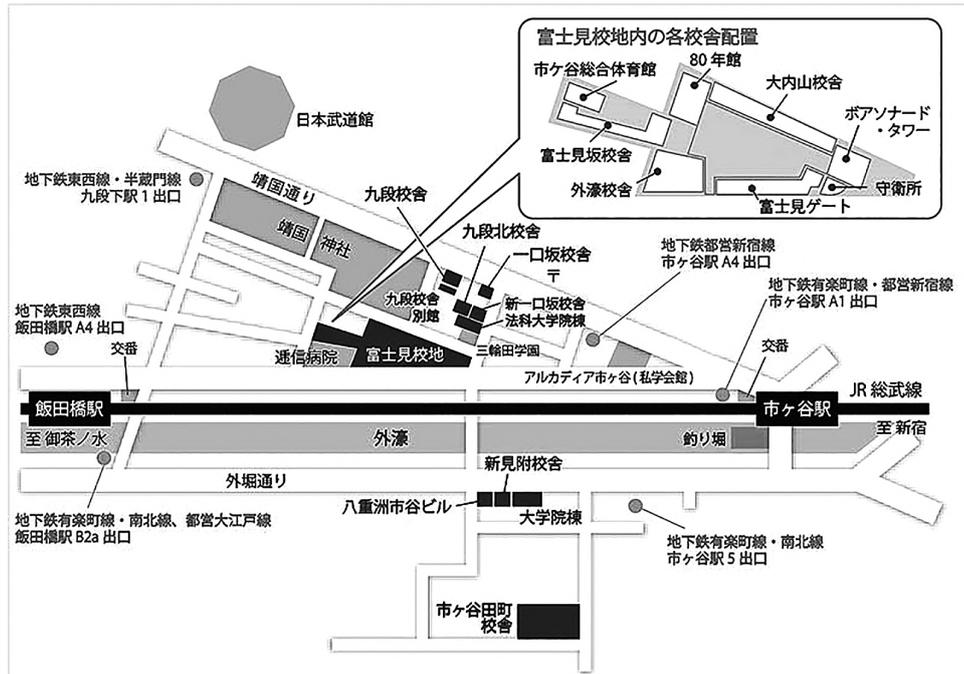
このような小説として稀な特質がオペラ化にあたってはきわめて好都合であった。舞台装置も衣装も自由に選べるし、視覚的、音楽的に耳目を引きつける派手な場面も用意しやすい。このことは婚礼のシーンの祝祭的な効果（それが原作者の意図から外れることであっても）を見れば一目瞭然だろう。そして、歌われる台詞が原作とは別物でも、日本語の音声として自然でおもしろく、なおかつ美しい点は台本作者と作曲者の力業である。これらは原作選びが見事に成功したことを証している。日本オペラ界の近年最大の収穫とされる『紫苑物語』は、たまたまの成功作ではなく、台本作者や作曲家らの原作への深い理解と愛のたまものであることを示したい。

11・12月例会会場

法政大学 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 Y606 教室

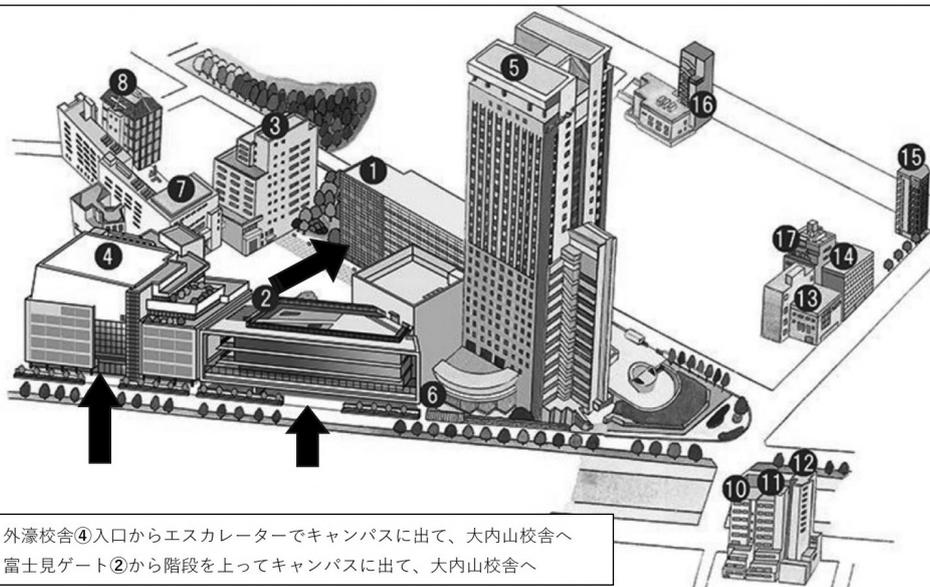
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

- ◆JR 総武線・東京メトロ有楽町線、南北線、市ヶ谷駅または飯田橋駅徒歩 10 分
- ◆JR 総武線・東京メトロ有楽町線、南北線、東西線、都営大江戸線 飯田橋駅徒歩 10 分
- ◆都営新宿線 市ヶ谷駅徒歩 10 分



法政大学 市ヶ谷校舎 Y606 教室

大内山校舎 ① (入ってエスカレーターで、あるいは、左奥にあるエレベーターで 6 階へ)



外濠校舎④入口からエスカレーターでキャンパスに出て、大内山校舎へ
 富士見ゲート②から階段を上ってキャンパスに出て、大内山校舎へ

東京支部短信

東京支部長に就任して

源 貴志

東京支部の活動にとって未曾有の困難な時期をその指導力によって乗り越えられた佐藤宗子先生の後を承けて、東京支部長に就任することとなりました。2020年度に始まるコロナ禍によって、一時は休止せざるを得なかった東京支部の活動が、オンラインによって復活した際に堀啓子先生より事務局長の職を引き継いで以来、経験豊かな諸先生のご叱正を受けながら、佐藤支部長のご指導のもとでオンラインでの支部活動が滞りなく進むよう、技術的にも試行錯誤しながらの2年間でした。このたび支部長の大役をお引き受けすることになり、いくつかの大きな課題に取り組まなくてはならないと考えています。

一つには、過去2年間の経験で、オンラインの便利さを知ることができた一方で、直接に顔を合わせて話し合うことの重要性も痛感されてきているなかで、コロナ禍後の新しい支部活動のありかたを考えなければならないこと、二つめには、支部活動全体の若返りを図らなければならないこと、さらには、支部の会員の方々が安心して自由な活動ができるように、透明性の高い支部の運営が行なわれるようなしくみをさらに整備していくこと、まずはこれらの3点が挙げられます。

いずれも簡単に解決のつく問題とは思われませんが、新任の宗形賢二事務局長をはじめ、各委員会の委員長、委員の先生方とともに着実に前に進むことができるように努力をいたします。

<訃報> 榎本義子（フェリス女学院大学名誉教授）

2023年7月8日フェリス女学院大学名誉教授の榎本義子先生が急逝されました。享年81歳。榎本先生のご専門は、アンジェラ・カーター、カズオ・イシグロ等。支部幹事などを歴任し、支部活動に貢献され、特にICLA東京大会ではご尽力いただきました。鎌倉ペンクラブ会員。謹んでご冥福をお祈りいたします。

当面の例会運営に関するお知らせ

11月、12月の例会開催方法は**対面**のみとなります。その後の例会の開催方法につきましては、会場の設備等を考慮し、随時『ニューズレター』でお知らせいたします。

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。新型コロナウイルス感染症の流行が続き、研究発表の機会が少ない現状に鑑み、研究論文投稿資格を有する者は、東京支部会員のすべてとします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は下記の通りです。ふるって投稿ください。お待ちしております。

日本比較文学会東京支部編集委員会委員長 椎名正博 pegasus@w2.dion.ne.jp
詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局 (hikaku.tokyo@gmail.com) に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト (<https://www.hikakutokyo.com/mm>) のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 141号

発行人：源 貴志

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：岩下 弘史 亀井 伸治 越野 剛 庄子 ひとみ 鈴木 美穂
中垣 恒太郎

事務局 事務局長：宗形 賢二

事務局委員：川野 礼音 土田 久美子 芳賀 理彦 畑中 健二
蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒411-8588

静岡県三島市文教町 1-9-18

日本大学国際関係学部

三島駅北口校舎 607研究室(宗形賢二)

TEL: 055-980-1924

E-mail: hikaku.tokyo@gmail.com